

学校教育目標		自ら学び、たくましく生きる、人間性豊かな子どもを育てる。		重点目標	習得・活用のバランスのとれた学力の向上と思いやりの心の育成を目指す			
		評価計画		自己評価		学校関係者評価	改善計画	
重点目標	目標達成のための具体的な方策	評価指標 (成果指標または取組指標)	評価 結果(成果と課題)	評 価	評 価	コメント		
授 業 づ く 点 目 標 に 関 す る 活 づ 評 り の 価	学力の向上	笹原タイムの充実(取組内容の例示と授業補助者の確保) 学力向上プラン	市販テストで表現処理の点数が5%アップ(国算) 毎月の学年別本の貸出し調査	3	4	各担当の先生の説明は、自信にあふれ、データもそれを証明している。学力が伸びているのは、先生方の努力の賜物だと思います。本は、しっかり読んでいるのか。	笹原タイムの確実な実施 読書量チェックの実施と個人の読書量達成の努力 特書感想文の書き方の例示を学年段階に沿って、提示する。 「書く」領域の指導を改善する。	
		国語を中心とした校内研究の効果的な実施(実質数値の向上をめざす校内研究)	市販テストや学力テストの数値が全国平均を目指す	4				読むことや言語事項については、丁寧にやったことで少しずつ高まりが見えるようになった。 ・「書く」ことについての項目が弱いので、表現のよさや書き方の指導を行う。
	読解力の育成(国語)	毎時間の学習の終末で「振り返り活動」の場を設定する。	市売テストで読解力の数値が3ポイント以上向上	3	4	自己評価の点数は厳しいのではないかと。中間点も検討されたら。国語は全ての教科の基礎なので、研究として取り上げたのはとてもよかった。「書く」力が伸びないのはなぜか、自分の考えを文章にしたり、体験を沢山させたりするべきだ。例文のようなものを見せて、文章の作り方を繰り返すべきと思う。こういう取組によって考え方の基礎を身に付けてほしい。	国語において読解力の育成と、言語活動のあり方について研究する。新たに言語活動につながる「読みの視点」の獲得 国語や算数の授業における「見通し・振り返り」の実施 総合的な学習の時間で、ユネスコスクールにつながる学習を展開する。レポートや論文などの学習のまとめ 言語活動を使った思考力・表現力を向上	
		読みを深める10の手立ての繰り返し指導	授業の後の協議で、児童の表現の確かさを評価 論拠を明確にした発言、発表	3				10の視点の中で、中心になる言葉に目を向けることができるようになった。 ・論拠を明確にした発言の指導が必要である。
		学んだことを生かして新聞やレポートにまとめる活動を取り入れる	小グループの中での発言の数(各個人) 友達の意見を生かして修正するかどうか	3				新聞づくりでは、友達の作品のよさを取り入れて(例えばアンケートやイラストを使う)修正することができた。 ・まとめ方は分かってきたが、内容の充実が必要。全員提出し、チェックできた。日々の生活の様子観察に努めた。 ・言葉遣い、あいさつなど思いやりの心を態度に表す指導をすると共に自分のよさを意識させる。
	思いやりの心の育成	いじめのない学校作り(生活アンケートのチェック、面談等の実)	生活アンケートではリーダーチャートが各項目1.0以上を目指す	3	4	生活アンケートの結果は、高学年になると、とても悲しい状態になっています。自己概念が低いのも気になります。自分を尊いと思うためには、達成感を味わう体験が大事ではないでしょうか。一つでもこれをやり遂げた、のりこえたという体験をさせてほしいと思います。自分をためせる機会をいっぱい与えてほしいと思います。挨拶は、地域でも随分できるようになってきたが、個人差が大きいように思う。家庭への啓発も必要ではないか。	生活アンケートなどや教育相談などの確実な実施 言葉遣いに関する年間の取り組みを徹底させる。(国語的に、生徒指導的に) 生徒指導の留意点に沿った授業の構築 SSTの実施(1単位時間や朝の会などで) 構成的エンカウンターの取り組み(朝の会などで) 掃除リーダー制度の組織的な見直し	
		自己存在感を高める授業づくり	生活アンケートの自尊感情項目で1.0を目指す	3				毎日生活振り返りカードをつけさせ「がんばったね」と声をかけたことで自尊感情が高まった。 ・自己評価の低い子どもに対して、活躍の場を設けてやるなど自信を持たせる場の設定を工夫する。
		人権・同和教育授業研究会を実施する	交流フェスタの授業参観で自尊感情を高める授業を実施する	3				授業研究の実施により、人権・同和への理解が深まり、後の研修会でさらに深化したと思う。 ・保護者への啓発が必要である。
		ソーシャルスキルトレーニングの充実	月1回の学級活動の実施	3				計画的に学級活動を行うことにより、友達同士の関わり方が少しずつよくなってきた。 ・月1回の学級活動ではなく、日々の生活の中で必要なスキルを身につけさせていきたい。
	家庭学習の習慣定着	家庭学習時間を設け、家庭学習ノートの記入を徹底させる	・家庭学習ノートの点検と家庭学習の定着率の向上 80%の児童に数値を達成させる	4	4	勉強中はテレビを観ない等、どの学年も共通に守ることを定めて取り組んでほしい。	新聞記事に関するコメントを書くなどの家庭学習の工夫 家庭学習時間の確実な実施	
外遊びの励行		休み時間での遊びの励行、学級遊びの工夫	4	教師の声かけもあり、休み時間、よくサッカーやバスケットをしていた。 ・いろいろな外遊びの仕方を子どもたちに教えて、遊びのバリエーションを増やす。				
体育学習の活性化		運動の時間の確保 運動能力テストの実施による体力の監視	運動能力テストの分析(昨年度より向上していること)	3				体力テストを元に、体ほぐし運動等の体力向上に努め、昨年より向上している項目もある。 ・体力テストの分析をきちんとし、授業に生かす。

4 : 目標達成 (80%以上) 3 : ほぼ達成 (60%~80%未満) 2 : もう少し (40%~60%未満) 1 : できていない (40%未満)